

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075500704
法人名	NPO法人ヒューマンネット大地の翼
事業所名	グループホーム うぐいす
所在地	〒823-0003 福岡県宮若市本城1104番地 (電話・FAX) 0949-33-4710

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供項目より】(平成 19年 11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	7.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 10,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(11月 20 日現在)

登録人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 85.1 歳	最低	80 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人相生会宮田病院 塩川歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開所2年目であるグループホームうぐいすは、運営母体のNPO法人ヒューマンネット大地の翼が「家族が安心して暮らせる場所を作ってほしい」との願いにより開設しているが、今年はその願いを実現するために「重度化や終末期に向けた方針」に沿って、重度化した入居者の日々の暮らしを協力医療機関や訪問看護等との連携で支援している。そして、入居者や家族の意向に基づく介護計画を実践するために、職員は日々の気づきをノートに記載し、ミーティングで共有することで、入居者の意向や個性を重視したケアを行っている。開所当初に発足した家族会は毎月開催され、入居者や家族の意向をホームの運営に活かす努力をしている。このような率直な意見交換ができる環境作りが功を奏し、入居者と管理者・職員が家族のような会話をを楽しむ関係やケアが展開され、開所以来、入居者の退去や職員の離職がない。さらに、「地域密着サービスとして地域との交流を促進したい」との願いから、先ごろ地域の10のグループホームで「GHみやわか」を発足している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果の全改善点を改善計画シートに記載し、改善点の進捗状況や実践を評価をしている。中でも介護計画書作成時や見直し時に入居者や家族の意向を把握し、担当者会議録を整備したり、毎月介護支援専門員は計画の進捗状況や実践を評価したモニタリング表を整備している。また、介護計画に沿った支援経過を記録し、毎月ミーティングで話し合いを実践している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が外部評価を理解し、自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	2ヶ月ごとに全家族、行政担当者、老人会会長、区長、消防署、警察署、及び近隣の小学校長等呼びかけ、運営推進会議を開催している。ホームの行事や外部評価等について報告し、議事録を整備しているが、運営推進会議に関する規程を整備していない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	毎月担当職員が記載した心身の状況等を家族に送付したり、行事等の写真を掲載したホーム便りを四季折々に送付している。常勤職員の看護師が協力医療機関や訪問看護等との連携で健康状態を把握し記録している。随時家族に連絡した場合は、その旨も記録している。預かり金は金銭出納帳を整備し、家族に了承を得ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し、缶拾い等に参加したり、焼き肉大会・盆踊り・餅つき大会にホームの場所を提供している。餅つき大会には地域の子ども達も参加している。今冬、ホームの畑に冬瓜が15個も採れ、近隣におすそ分けしているなどのお付き合いがある。先ごろの福祉祭りでは、地域の10のグループホームと共催でテナントを出店したり、パネルディスカッションを開催している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日ごろから地域と交流し、重要事項説明書等に「家庭的な環境の下」と明記しているが、介護保険制度改正に伴う地域密着型サービスの法令である「地域との交流の下」を明記していない。運営理念は事務コーナー入り口の壁に大きく掲示している。	○	地域との交流を促進するためにも、パンフレット・重要事項説明書等に介護保険制度改正に伴う地域密着型サービスの法令である「地域との交流の下」を謳っていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が朝礼で運営理念を唱和している。職員は地域密着型サービスの特色を理解し、日ごろから実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、缶拾い等に参加したり、焼き肉大会・盆踊り・餅つき大会にホームの場所を提供している。餅つき大会には地域の子ども達も参加している。今冬、ホームの畑に冬瓜が15個も採れ、近隣におすそ分けするなどのお付き合いがある。先ごろの福祉祭りでは、地域の10のグループホームと共催でテナントを出店したり、パネルディスカッションを開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価を理解し、自己評価に取り組んでいる。前回の評価結果の全改善点を改善計画シートに記載し、改善点の進捗状況や実践を評価をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに全家族、行政担当者、老人会会長、区長、消防署、警察署、及び近隣の小学校長等呼びかけ、運営推進会議を開催している。ホームの行事や外部評価等について報告し、議事録を整備しているが、運営推進会議に関する規程を整備していない。	○	運営推進会議に関する規程の整備をお願いしたい。現在、家族会と同じ日時の開催なので、より円滑な運営推進会議を実施するためにも議事を区別されてはいいかがでしょうか。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の10グループホームで「GHみやわか」を発足し、福祉祭りの企画・参加で行政担当者と話し合う機会を設けている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度の研修会に参加し、ミーティング等で伝達している。現在まで、制度の利用はない。	○	入居者の心身の状況や環境等を勘案し、随時成年後見制度等の説明やその旨の記録もお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月担当職員が記載した心身の状況等を家族に送付したり、行事等の写真を掲載した「うぐいすたより」を四季折々に送付している。常勤職員の看護師が協力医療機関や訪問看護等との連携で健康状態を把握し記録している。随時家族に連絡した場合は、その旨も記録している。預かり金は金銭出納帳を整備し、家族に了承を得ている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム及び公的機関の苦情担当窓口を明記した重要事項説明書を玄関に掲示したり、ご意見箱を設置している。家族会を毎月、また隔月に運営推進会議と同じ日時に開催することで、家族の意見をホームの運営に反映している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は認知症の特性を十分に理解し、職員を担当制にすることで、入居者と馴染みの関係づくりを行っている。開設以来離職者がなく、管理者及び全職員が意見交換ができる環境を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用には性別・年齢の制限はない。就業規則が整備され、雇用契約書が取り交わされている。定期健康診断も実施している。職員の休息の場はないが、慰労会等でストレス解消をしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権研修に参加し、その資料をマニュアルとして職員に回覧している。また、日ごろミーティング等で事務局長が入居者の人権について話している。運営規程に身体拘束について明記しマニュアルも整備しているが、虐待防止マニュアルがない。	○	虐待防止について話し合いをしているので、マニュアルを作成し今後もさらに虐待防止に取り組んでいただきたい。ミーティング等での人権についての話し合いを研修として記録の整備をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県グループホーム協議会に加入し、Fブロックの研修会に参加している。また、地域の10のグループホームで「GHみやわか」を発足し、研鑽の機会を設けているが、年間研修計画は作成していない。参加した研修はミーティング等で伝達研修等を実施している。スーパーバイザーはいないが、理事長が職員の相談に応じている。	○	グループホーム協議会や「GHみやわか」で企画する研修会等を盛り込んだ年間研修計画の作成や職員の段階に応じた研修実施を期待します。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会Fブロックの研修会に参加したり、先ごろ地域の10のグループホームで「GHみやわか」を発足し、福祉祭りの参加により同業者との交流を促進している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービスの利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開設以来退去者はいないが、開設当初は入居希望者の入院先に面会に行ったり、ホームを見学してもらうことで本人や家族の意向を確認し、入居に至っている。開設当初から家族の会を発足し、家族と相談しながら入居者の生活を支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員が率直に意見や文句が言い合える家族のような関係作りがある。入居者から干し柿の作り方や包丁の使い方などを教えてもらったり、入居者が管理者等の体調を心配して声をかけるなど、共に支えあう生活がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式による丁寧なアセスメントで、入居者や家族の希望や願いを把握し、介護計画書第1表に記載している。	○	東京センター方式で生活暦・職歴等をアセスメントしているので、収集した情報を活用した週間計画の作成をお願いしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向に沿って、個別性・具体性のある介護計画を作成するために、職員は日ごろの気づきを自由にノートに書き込み、担当者会議で話し合ったり、ミーティングで確認しながら、全職員で介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員が毎月介護計画の進捗状況を記載したモニタリング表を整備している。3ヶ月毎に介護計画を見直したり、状況に応じてショートプランを作成し、介護計画を家族等に説明し了承を得た確認印がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて自主サービスで医療機関の受診を支援し、重度化等を防止している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関受診を支援をしたり、協力医療機関への夜間や時間外受診も支援している。看護師の職員が医療機関と連携し、受診情報を職員に周知し、家族にも随時報告し記録を整備している。医療機関の受診はほとんどの家族が同行している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナル期に向けた方針を整備し、全入居者や家族に説明し同意を得ている。現在、重度の入居者に対する方針を医師、訪問看護師、家族等と話し合い、担当者会議録に記載している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用目的を重要事項説明書に記載し、入居者や家族に説明し同意を得ている。重要事項説明書は玄関に掲示している。個人ファイルは事務コーナーの机の引き出しに保管している。職員は、入居者の人権やプライバシーを配慮した声かけや対応をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	東京センター方式の活用で、入居者の生活暦や職歴等を把握し、各入居者のペースに応じた生活を支援している。訪問調査当日も、入居者の心身の状況や意向にそって昼食の時間を変えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、片付け等で入居者の力量に応じた関りを支援している。訪問調査当日の昼食はちらし寿司、しらえ等であったが、職員は入居者の好みや下ごしらえの話をしながら入居者と同じテーブルで同じ食事をしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外の午後、入浴の順番を変え隔日に入浴を支援している。入浴拒否者には、清拭等で保清したり声かけを工夫して入浴を促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケが好みの入居者が多いので、地域のボランティアにお願いして歌を歌ったり、大正琴の演奏をお願いしている。貼り絵等の作品を皆で作っている。馴染みのお店から化粧品を購入する入居者は、納品の際に顔のマッサージをお願いしており、お化粧の楽しみを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画に沿って、映画、航空ショー、外食等に家族もお誘いして出かけている。入居者の希望に沿って随時近隣のスーパーへの買い物に出かけたり、郵便局や馴染みの美容院等への外出を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	18時から翌朝7時までは玄関等は施錠しているが、その他の時間は施錠せず、外出傾向のある入居者は生活リズムを把握することで対応している。警察や消防等の関係機関に運営推進会議の参加を呼びかけ、理解と協力をお願いしている。1人で外出できる入居者には小さなネームプレートの持参をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の非常災害避難マップを共用空間に掲示している。非常災害マニュアルを整備している。先ごろ家族、地域のグループホームに呼びかけ、消防署にお願いして、ホームで緊急蘇生法やAEDの実技指導を受けている。消火器は整備しているが、食品等の備蓄はない。	○	地域の協力を得ながら定期的な避難訓練が実施できるように、運営推進会議で検討をお願いしたい。また、非常災害を想定して食品、飲料水、日用品等の備蓄の検討もお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日おおよそ1500kcalで献立をしている。各入居者の食事毎の摂取量やおおまかな水分摂取を把握している。主治医の指示で、カリウムの摂取制限を支援したり、嚥下・咀嚼状況に応じてトロミをつけたり、きざみ等で食形を工夫している。毎月2回の体重測定で健康を管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先からベランダの軒の干し柿が見え、季節を感じさせる。段差がない玄関には、座って靴がはけるように椅子が置かれている。玄関傍に事務のコーナーがあり、カウンターの上には季節の果物グッズや日本人形が置かれている。ホームの真ん中の共用空間は吹き抜けで明るく、食堂と居間を兼用している。対面式の台所から入居者を見守りをしながら、共に調理もでき、美味しそうな匂いが漂っている。傍のソファでは居室では寂しいと横になっている入居者もあり、居心地のよい共用空間である。2ヶ所にトイレが設置されているが、換気や防臭に配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により畳を敷いている居室もある。ホームが医療機関から譲り受けたベットを使用し、箆笥等の馴染みの家具や日用品が持ち込まれ本人が過ごし易い居室づくりをしている。		